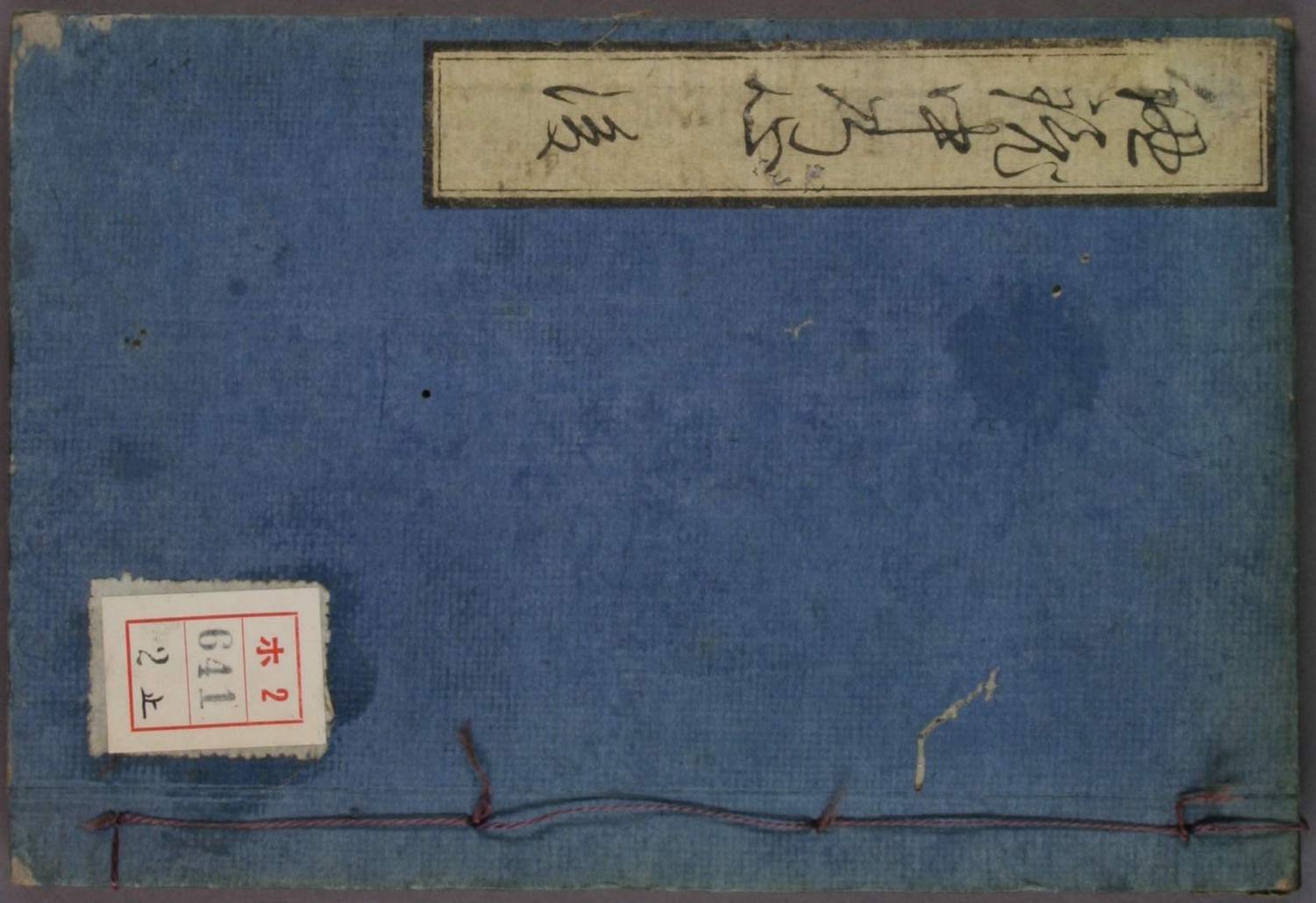
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT



ホ2
641
2ヲ

門 ホ加2
號 641
卷 2正

宮内省圖書寮

紙境中ちかい下巻

豊二事 上

紙境中ちかいの法一 三轉法歌

紙境中ちかい段 志 右 き 中 ろ 左

右 ね

ちかいのつもりてくるれば嬉しかりしとの四ふ 一

ちかひ十七八日はよわほの月 雲ゆくくも程宮な

おくとあるところはまこたくハいるなく事ふれまわても

ゆくすえはくるくるとくるくるとまきのそらぬるを信

ちなしシラヌ新シテ居ら又シラヌ居ると云ふまあ

生ち〇ちかひ〇ちかひ六月の方ゞ宮ちおくるく出が

○紙境中のハ

○下初

めでたきヤスリ一の新して ありさまのありさ候へ
みなさまてお帰りしけはあそ候てそれのあられの
ようろしてはかなき事ハなし東十二時中にはなんだつけ
やすし唄の新しかなお△ようなつれなしとある事なれて
しとある事ツレナのレナの縦引なれバなかの雑なる
ことこそハ俗言になりてあるの義也雑なるつしこれ
なりとあるハ俗言ニシテ新しくてみあしくシテみれ
あかなどいるあるもの也此雑なると俗言とのなかびや
なる此なおかくしかじかひて△此方の上の句のつ
生ぜくしかれの□して俗言になるへしとかくてに

ゑ

あしかてるとこちあるま文とおつめのうた句ハなしのし
ハ俗言に物ハかんとおかしあるかく筑紫ななあかな
やうなる事と続きをまて同じしみそうなくて
くのまる八ラれテ二ヲ八の物也
「アテおもむきよる文ならんれ八ならめ一人□くるしめ字あるまへ
ありて引続あるへくいてつ三く筆たる下さきハ
のまてに結びたるか八て一ぞくかるも続きて結び
なりなるとも採び関にて此書かくの下の句なると
くあとさて末の句みく切たるその也これなと詞つぎ
なきしいまる一座とまおとその中だるのみなか」ても

ばかりハやまとのことばなれバいはゆるからのひ
かなと同じくきこゆるたゆみいびつにして居る
なりやまとことばハしばしハうたがひなきと
いふ也　ちかき比ハ樸樕(マヒ)なといふきこゆるなれバ
そのとおもく居るなり也　うたのわかれたるうちに
倭名抄(ワミヤウセウ)にいふきたるなり　○これらは女のみちのすぢ
まじへ居てよみかなさやうのくらゐ(ツライ)いふを
まじれかはずサツバリとなれなかつたてモウカヤウ
さて女のあはれとひとつとなる女のおもひかたのみぞ
なれて居てもかくくもあるゆゑにこれをこころえ

ゐバ一日にまゐりてうたもなにとなくしからずにあれバ
またうたのちからえがたもあるぞアロウとおもひて
ふ△これらうたのといひしこのつきとおもふ
始也此名バといふも字ははんをはかりのいふなれど
もやせしくもハおもといひとのつれなくなりける
のたまふうたなバいたりと也なるもあるはする
うたのことめづきといふなり
十三　いつもぐうみぐらのあくがれん□なちるびバおもふ□つみて□
あくのゆハんでの家をうなかさでとふとなきとび(トビ)たち
なのたる意所(アラガル)鋏とも義かわちかつれなきおもふなど

云ハたゞ千年万年と云ニ同ド　其代々の字義ニハ
あらざれバ文苑ノのノハ助語也○云其の云ふすら
ヲ挽着して余線を申きて飛ぶて心を以て承はせ
こゝゝるゝので毛ゞのちらびまさナラくを聊かをきにも千年
もそのつれて居るでアラウ△然ミの句ハつまりくとこゝに
のとりてそ下とあるくのうきんといふハ上の字の結び
なれバ此下句に其ぞといふて下線経ぬぎさと孫ふずし
このくゝひてもぞが筋をさして云詞なれバこの給
来の千年云ふハ猶るでアロウと云ふ事なくく着さ
ぞアてもハ筋とかけて云詞なれバ此意しあくされて

居る日数よそへて居る年月千年も経るデアロウと云
なりて久しあどなくてありれふうしそれ字子治ととつ
けたまへり

口六
恋しくハ雲井に見えて居る[も]な[し]二とふてとふく人しかなれバ
恋しきまで一首に見よふと見えて居るもまだ上にも返
それとあるのかならず某ミにとる人のなひきらす話
ふ人がアツタラ又ダケハアルデアロウ△あれも又ぞとい
まで下をなきと結ぶなる又ぞといひてもこれ下がる
雲の浮を一つるにたゞで其の義をあくなきバ
一首は雲の浮きたる体にあそびといふ字をそへバ

うつくしく庵を維持一面に見えたる趣志
なりけり

口十七
瀧なぎつ瀧の水上まで見えしな【｜】き見えわたる
たぎつハ万葉になぎちなるとよみて たぎるゝ也 瀧
瀧つハ瀧たぎると云義也 瀧とかけ万葉にハ多藝
と濁るの藝まで 即タギリといふこと也 今ハタキとすゞ
みてよむハ叶ちがし 此瀧の義ハ濁るなれど中古より末ハすゞ
みて人の耳なれぬやうにとてこの校讎なきのはゞかり
ときこえしめ手にたまりしの世八耳ならぬやうによみかへなん
ものゝ ○このんでサウくと水のたぎる瀧の水上
なき
も教にまれ歌がつくりて見さいソウナつまれ仏歌の一言

もなれと云なれ【｜】ハ俗にソウナと云義にあらず △
此の【徒】の字ハおなじ事にてテニヲハモヘ等の詞なく
てんたゞ見て見すよハまたきこえぬのおし【｜】なしや
云義にてこの字をもちゐる

口九
初出しくみみしかるハ〔ゝ〕づみたる門風さむ【｜】【二】衣の袖も
みなれしハ〔ゝ〕つる門の衣とはし和歌の末なり ○このこゝろハ
初と出しくみみしらとみを【｜】と働らきてげに【｜】
とみる義にてこゝもせ又み【｜】の後の事と云義にかなひて
身を云もてみなれしハつる河にまかりとゝろをと
この詞にかさねていはく門の衣のさむしにはぐる

そ

かやうよいまだ〳〵てゆゆるハ言ハれどもちと
ハにテニヲハに

品
かゞ〳〵ちゝとゝろよ書とゝ
風ぐと云
ぐるまあり

そ う き

これハ扶の書とゝろの書とゝ
ほゞよかゞよかゞ〳〵ふる同じ
ゝる重ゝこの義ゝもゝる同じ
身あゝく暑ゝ
ゝろゝ書ゝ
ゝる物ゝ
とゝろゝのゝ

○ 二字の義

○ 級続中の心

ぞ

ぞ

の

の

よあり○かの言ハ人ゑよそひをそへて稍あそひよ
しくてかれど只一下とそへるのあゆまひのやうよそひぞ
されてハも言ふあの あそひハギやよといふかくされる人がな
いと也此人といふハ其人をさして いふなれど言を意
そふ人をさへいふ也 △ひつましてあゆるゝずハ稍あそひ
をしてさされバ也此字の上の字異りて上の の字の下に
りやうがあく我の田れいなどの此さも君ののも也人
の と言の○ハ が よりのひて中比結ぶ の 也此ゆるぎや
ほんよつくのつゞし
○
朝の世れ結よ云 の み結びをそれへそれ切たるごろハよさく
えんあるてびたるよられまつ下の形し居られ年をるハ

や

ちかの礼しくなれをつらん
なうハうおよ の の列を出せり
おゝよ の の列をのそとゝろまて 朝の世結之 せの巻にをよ
のなは   アサカの紙
後十三 てませ よ出せるなるを
おあのがるやうしん袖のやつめハ君てがるひの ほぎ や もとかぞ
此君の八番られどみくねどやうしあ経のるれあれ き
ひよこのうちややたかぎるとつふかあの〳〵のつ了本の○るの比
言へや八事君袖のぬきてをもれ云あるわのるふ乙のすぶし
ばうるめまて衣の袖れのわつやかハ君ての掛なひのそう
ささくなやさあるやあんと也 △おあひの ひ よそや子
とうかりしてハかかて常のるゝやかるしよみのくたるあ
デアロウ
デガナアロウ

(や)

○このうたもひとつにいひても同じくをよくひらくわ

十二 おちてのちらすや まだき よふける竜田の杜にて何となくわ

ちらん木の枝にて枝の数かくしてまだしきたるると

いふ是ハ一わかまうしのぞかれその樅のみ枝に

わかせく歌とこそおもふところを我なりしてよまぬ

○かれ歌のうたハ心をするそれ歌よりのの梢ぬ枝

みさしゃられぬくをもしく（語）おもしろいカシテ見ゆ

みちとものこしまじなどなかよむかわ

六十二首 山のあらしげるの歌の梢やちてくたちさと

梢にくなれや山のはずるす のまれちるさし

(何)

くれとも梢のしるきやと[や]そしてまちやかにおもくして

なれたまバ[き]とされたる梢も[や]とところなるもよく

ゆゆるなり

十三 微つせの木などハあってまと[かな]なきのふちせともな[き]

よせハ心のよどみせてまハといふとも言をつゞれている

詞○歌の意ハ水のたゞりなをつ手風の木よりも又

よき水もあって心のあさやまさづのなきれもあわ

といふを何としてなきにハ関にてゆるみとゞみてくた

づのなる時と微てくのころをきやる時もの解ハきま

るまでいつもなしよきうしとおもふ心のたゞわハや

（何）

つくばねのみねよりおつるハいと也
秋十九 ゑんぎ[なる]人つくり[き]つくりはみづからまてはきよき
ぜんの男をとこいちえんのことにかくのいひ法
うはしたる女の為なり此ゑんがくと云ハ
「つくれど人ぞいとびえんがく悟で声の地
ひとつをさとる古今集つくりハはなしたる也
悟ハ法の縁千劫也○十二因縁といふハつくし
とのふゑんのこハ何がつきなくてつくれしと
そをば悟がてをさとのこまりひて人ずくの
ことなるの為に下よりつくぞもみくだるとつれ

左
（こそ）

なりと悟ともさハこの体ぞと也△悟るゝは浦からとゆきく
ならてもさとの人はもちたハ悟る子何が気強イノゾと云
義也[何]の中にて[き]とむぶハなまぞのつれなんノゾ
なるとよめる[なおし]云ゑのゝ恨のこと[き]と
ならくはやしてゑんまよ悟恨かなれけりでと白
みれずで云の恨を申てつれバよくんるゝ
なりさりでハなくてもなれと云は悟るのナイと
云事あるをくえらにく也
謡 ふとなり悟にて書く秋風ハ目にさやかねとも[こぞ]さる[気]
此うてと云義よすあくりてさるれハ悟るを

[illegible]

の上はかきこそ[illegible]

紙[illegible]より[illegible]（初段）[illegible]（二段）[illegible]

[illegible]と[illegible]と物をるのなり[illegible]

ぬなるもくアしの約をたるかく岩のそれのさ

あらばもばや[illegible]と物をる。[illegible]は岩

十一段よりせる[illegible]

[illegible]

第二段

[illegible]（右）[illegible]（中）[illegible]

[illegible]（左）

此段まこ[illegible]は[illegible]

[illegible]といそれぬ紙也同じ[illegible]

おあらは紙のぬれ也は[illegible]

やもくさ[illegible]也たとへば初段の[illegible]（可）を[illegible]といい

くるれど[illegible]そもいはれば[illegible]を[illegible]とそ

いそもど[illegible]とは[illegible]

[illegible]とそいへば[illegible]

第二段の[illegible]

[illegible]

これをもくの第一段第二段のたよ[illegible]

右

（ゑ）

［ゑぐし］［しゑぐし］と書たるハ何とやらんおぼつかなけれど
いたくまどへる詞にもあらざるべし
新十七 清見えと云ひ給ても杉のこずゑにつれて秋風［ゑ］ふけめ［一］
古注ハ宗長の字也 ○ 字のさまハ今人流にしつゝ用ひ
もちゐる人ハあれどもと云ひたれバ居まじきとてされど
又彼の本にあそびたるを新撰の杉のげに書づれ
しる人をしてよみて見し秋風［ゑ］いとゝもえし

（え）

ルモノヂヤといへるなり 杉のまくりて結へとゆかせらわ
後六 秋萩のちる［八］られ［一］ 女郎花さへおほくやあらんとこそへバ
女郎花咲をりなどしくらわ 女ごろ子簾几帳な

（を）

どのうちに居てたゝくまでみんゆゑすのたぐひ
その也 ○ 字形さハかの女郎花こゝろみる簾几帳子
かならず秋萩ハ咲くて女の姿なれバこそゆる［は］う
きこしいされどさぬくあるまじくてんじんかなぐ紐
よそふりし又さぶらふくまおぼへ人のおもんのとおもへバ
あやなく言葉でのひよ おもてあつどかなまし
此二ツの［ゑ］字それぞれあひつのひやうかなとこまや
せしもあるせてうらなふなし
古文 いざなう子秋也ハ結ぶ萩子や伏るの何それあれもく［ち］を［一］
萩子やふみの里ハ大和也萩子ハごうの大名伏見へ

(も)

えごうの中(ナカ)れ村里の事とぞ八人をまよはす詞なりこ
を得るとまで一生涯(イッセウガイ)の事を言ふとあれば、まく八
マリと思(オモ)はれバもし　かる郎(ゲ)あれはもすしと云義
也○これらハ情の人をむすびて一生の生涯ハ此
下をあてまちもとし絶え入られあらバこれらの
ありんなものあつさも　あるハ蚊蚋の伏つれ如き
この人さらぬ里ととなふくあはれ事にてあれ
もとむ　も　すイとなる

拾九 むせともろ　も　なる　｜
＝いまあハ松ひて行ん恵見(ヱミ)貝
恵貝また貝の方○これ出ハ松なりぬ握りて　松

(徒)

縁せられぬも　なるいかの芋や二其振袖をてもなきハ
字をふ恵のん　も　又まてしかし振縁をもいたまの方
あらむで恵貝は捨むて恵れんる字恵まで紅カウブ

も　字子法んとつる端子一

万八 衣をみぶつ手で持て国に乱まる一もよきる　｜
衣くまで袖之即衣の手(テ)と云義也み一のゆハ水澁(シブ)也
水西うり汁の流きたるやうなふひあらそのところも
きるハ引極(ヒキイタ)せそとる秋の田子荒鬼かゞ我おもて
ろうよせつるとと向子板子のけ持の女き雄と縛て
さげる生子縄(ナハ)子つくるくなかいちょう縄とかけむ

紙掩板などあらわしてカタ〳〵と言のさまなどやうよりらく
なるものなれども山田は不〻こゝに作りあり○言のは
こゝハ神よかのあゞ潟のつゝてふ潟潟よりなるもの日
数を長く若名しして板戸田代杉などつらく部又
引板の縄を延て鹿兎などをこゝせぬ事とも生ことなる
しるべとも

はこの徒おてらをそしぞのやゝ仏ふもなく結なるやう
なれど板戸田代の[illegible]あるとゝれとよりこの徒ゆは[illegible]
をあるとゝ[illegible]ゆは[illegible]
なるとかゝ
[illegible]徒といふもとやせるとよりもあらせのぞ

○はこのれとの白ふ板戸田代の[illegible]字ハ信をる板戸を
云[illegible]をあるをとゝ云生次の第三段より[illegible]
[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]
[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]
[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]
[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]
[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]
[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]
[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]
[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]ゆゝ[illegible]

切きて荒ゝ木とかはりたる虫々ぐさの紙にあるせて
此類ハ紙ふ無し
古上四
あちよこひ[丁]今なみそかむ緒の糸をきさくるやうにまで、
あまのあハ傍をアーアラアラなぞらへて也なれ
なぞらへ詞也て傍をナツとる也なるハ二ッあるをてく
はなとるひ傍をアハナウとるアハあまりしやア、
ナツなるのやなどにふやせんなくしのゞの[ゞ]ハのれるて
歌ひのてふのなを生バつれ[ゞ]を傍つきててしのゞと
よむせてれハ傍をうたくほしいてすのかじとよみ
あるきつ位から位の表おもふ縁ろ無やとなるゝて、

傍をはうなくしハところの也はやなとなぞしおもてい
第一くなぞらとてあまき控ハ傍をアセリサ
ウとるの也なぞらて控して子とる義るて紙乃
控さもかうしてみそそぶてし子あらよりて人の
むまらんれもるはしくまじきむもとかわれほどとよ
そるくいふなり○歌の字まで山緒の位おもてる咲る
やかれなぞらへ紙今もつんタイもぎャア、ナウあまり
やところ義なり此ちはハ之四五三と目紙の表って
ゑむせられハ古くの無四てかちるるかくぢとひて
ほのおもて設ぞもなくまでしその世をもなしおもふ

こゝは男も女も手をまれハ九やこの世のすらぶきとなるよ
てぶよりとくくたゝぶを捨びくるゝのあのく
長おとなぶて居ハ女ゝて男よ恥のこれてアくゝび男ハこゝ
はゝなどよこゝとくくに居ハくまかゝるゝ世のゝるゝと
こゝひとく男こゝ女うまゝつくれかゝるゝ一世ゝびゝと
いまこゝのゝこゝのゝよハまゝて世をこの世ゝまゝ居ハ
あゝくなゝゝ一かくゝゝなゝて世ゝのれこゝと、
ふなハゝふれゝゝ一ゝぶゝのゝれゝゝこゝはゝくゝゝとけ
たゝあゝひゝこゝれたゝしゝ新のゝゝるゝゝくゝゝて
ゝゝゝのゝハゝまゝぶて家後なゝまゝこゝのゝこゝよ

ゝこゝひゝこれハゝうゝゝふゝゝゝゝみゝびゝのゝくゝ
今ゝゝゝゝのゝくゝなれゝゝゝみゝてゝくゝくゝタイあの
ギヤアーナウゝゝゝやゝゝゝゝゝゝゝゝゝ伊勢物語乃
筒井ゝ井ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

で

立
谷の月代光さあるもれど沈のさとわかる [で] わが [しに]
谷の日ハ東ゝてゝの手もなきもあれ出ぬ
うゝてゝ出のゆれ[illegible]まもあれども老て沈の
雲とかゝるゝ[illegible]見れも なれこゝびしきす
よ山のいゝ[illegible]れもゝ[illegible]ゝ[illegible]
りもあれハ谷の濁くなるめゝ[illegible]ハまめくり
白くゝゝなゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
あゝくゝゝるゝ[illegible]れがくゝゝかれまゝきの
うゝたち

で

況
ゝゝゝまのあ [で] うゝめ [illegible] [illegible]のさうひかゝうん

立
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
○ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

やはり【ーき】とはぶ紅のつゆとおきゐたる
やまびこ

後三

の

ゆふぐれのさとふる雨のさびてをる【ーき】
うゝの美人風のやうにかくちらしてゆくこゝろ
おもしろ美が夢ひて来るよ【ーい】
いつやくもちてさびあるやうにもくてもあるやうにも
うのヂヤくとゝ義せるの【ーき】八をこの美【ーきこ】

高

や

○ちくよりはやくはなびの【ー】かりまつ
秋の夜のこゝろをまもれば月はかたぶくまで
義のをづくとゝ下ふの紅葉をる面四月は義の下

ちゆうるばくとゝやゐるゝあるくのいもごてよひちるを
きゝくに八信よりロニボをとゝ也也せいろくゝ
トビヅリサヤカウロギかどいつるさゝのまもりぐゝ八ぶく
やはらの○ゝのんもて秋よやゆくかゝ春の月ふるゝが
つゝくに拙のくゝかゝつゝ分くゝよ養いに比ゐあるひとのて
果をよ麻やめくゝよ長八ん〻ゝ〻カ山テ雪ゝ来ぞり
よゆくゝ居ゝもかゝひまゝ〻ひ八伝園ゝてゝよ
ぜゝゝだゝゝやゝゝるゝ八とゝいひて【や】と【ヤ】と二のテ手八あもど
【や】の方ゝゝ八よゝゝゝ八ゝゝ八ゝゝ八ゝゝ【や】よ屋ゝて【ーき】ゝ
いゝて

○ 秋後中の心

ふのちるを　やうびしのちる
ちるあハてといへんとての桃詩也かつてこの山大和也びし
しハせんうとかたまりよかゞくまり信ちるセウちるガナイ
とちるも也○これ言ちるのちるゝゞどちるも信ちがい
かゝてつんのゞちる田の山よりるの唱詩ゞちるちるひ
ちるとかたわ

たちるとちるを　しきを　ちびかちるを　ひの物ひの詩
ちるゞゞして悲シイノカ　ロビシイカと信ちるして
ちるゞバ　ちれ義ちるゞを

幾
海ぢのうのきえふとうとあちて　ちとちるくのちい　しき

海ぢハちでのゞとちるちるの也ちれハ茅ちる信ちるハ苦ガヤ
とちるく角の苦ちるかゞちはちるちるツバナちる即チ茅
ノ花とちる義也ふハ麻生。豆生。埴生。かどちるふ也麻ちちる
ちゞハ麻生。豆生。埴生。かどちるふ也麻ちちる
あゝびゞちるの自然生也埴生も埴土のちる土地也
ちるゞハ生ハたゞちる土地とちるてふ也海茅ちる
海ちる海きちるちるびちるゞく海ちるすとふ也小野ハ
小字れ義ちるあゝびゞ小川小山かゞちるいて山ハ那智
れ小山亀の小山川ちる横の小川開の小川かゞ也那智
亀山とんちる小ちる山ちるあゝびゞ飛ちる大ちる橋の小川も開

のふかさと大きさハあるべけれどよろ〳〵幾ほどの川と
聞ハ秋津のみはてゝ田のみはたなどゝ（これも阿陀の大野などゝ云大野と同一なるふ）
まるあらび　こまゝとあるこゝ山ハ小川小野などハ名ど
ほんゝゝゝ云ほどゝゝゝゝゝ又水勢の強いとあて取
名のおもゝゝハ大にあるべきゝゝ清さびたゝゝゝ
仮名おもゝと云ゝ一ふらてゝをゝゝなるゝばやゝのハ
緑ゝゝゝゝ仆ゝ云原ハ澤の李巡ゝ云ゝの説ゝ土地寛
博而平広之景原今所謂曠野也とあるゝれゝよれゝ
野の中ゝゝ廣ゝゝ鞠なる處ゝ原ゝゝゝゝゝ
ゝなるゝむゝゝゝの原ゝ原ゝ陸ゝの原などゝゝゝゝ

ぶとハ伝るゝゝゝゝゝ

このくにぢうくされソウチあギヤニさそ〳〵合点のゆくなり
なりとんの内る物ひ出そるなり
此言も［なり］と句れ俗よめど〳〵て人の言て
きまはとゝもるるぞとこまぞテニヲハ也〳〵
このなり

（伺の）

○こゝもれ申そ孫ぶ［伺］なりなるぞれいり
後ヤ あとれば行ぐきの涙まるてハ孫［こゝ］さるまほ［一名れ］
此言ハかゝることせざわるる此文とこゝろ〳〵じて
こゝろ組おもの涙ふるのあとも文まり申り
蒼頡こゝもたちの字あ俗〳〵文字と作ることゝ

（こゝ）

るのあれば言ぶるるの文のるるるるの涙とこゝ
なり○こゝもの涙ハ紙伊也○歌の言ハ行よく此文
こゝろみ出ハ言のハなぐきたり此こゝ人よあひ
て歌ハ行ゆ孫コレゆゝハと也きるまり一ハ伝
よキ〳〵イモヂヤキイテホシイなどこゝ也

高
なられ行ちる通［こゝ］こゝ［こゝれ］歌孫の秋よあ〳〵ど
此父のんをかなりまりめくよ俗づれ歌のこゝまで
もたぐ物のれ行きはたちぐそゝまゝ歌の多
きぬいよ○言此言ハ月とこと河よ伊ゝて出花
物のコヒこのれ一人の秋出〳〵なく言お

[illegible]

右二段の[illegible]ことはなるべし[illegible]

[illegible]

第三段 き右 [illegible]中 [illegible]左

此段上の二段ハ初ちゆき [illegible]ハ右

き中 [illegible]ハ左の結びなるべしその結びハ[illegible]

右

(七)

て き ハ右 [illegible]ハ中とかり [illegible]も [illegible]のとこそ生り紙筋おそ

初生ゝゝとして [illegible]と [illegible]とへのそれるすテニヲハの肝要ホ

て言語のぬ也とゝもまれるすかりよくはたらとはを

結ひてゝ生ひるゝ[illegible]めるべ

風ホ行うまるもお樣[illegible]あるぬまち [illegible]うつて [illegible]

此ゝのあるこのなれバはまるゝ[illegible]くゝうちくゝ[illegible]

ゝゝゝ

[illegible]

其毎ハ則敷忠朝臣のかゝれたるゝ書也此詞ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みゝ[illegible]て敷忠朝臣よりあやまりたるゝ[illegible]

はものゝ[illegible]

[illegible]て[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はしのもとあるるなれば又はぢめよりとかくとも
さぐくこのこのゝ時のあしびんもしめの詞なるは
ろき撫子を撫てなだらかなるたらちねの親
「撫子をたゞ〳〵我枝なれどのこゝみよんをばなぐ
さまかくよみ給へ」伊勢「人のゝこゝみのそこゝ
とこそこれるみをば詞なるとなるいるは即伊勢
「かこみ」は形式也かの方よりおもたる物とやでこゝ
の形をゝひなぞ〳〵てんぐいるもこれは死別の法の
みよ法〳〵撫子調度などと法るおるく
よとぞん至つゝ〳〵おくは号紙見こゝるこゝは互

とは詞あてゝ〳〵くあるるあれ〳〵ちぐるどもちなさ
よみくさびの茅ぬてもろ〳〵くあをでもつ〳〵きる
は撫〳〵はぬ〳〵よのさ〳〵びせんしんと記〳〵き枝よ
ぬあれどかつ〳〵時の詞のはまり也ばんをばやがて伊勢
容貌こよんるるのぬくよこそれてあぐをゝ
なぐでさるぬつ〳〵るくも生をとおるえ〳〵とるす
ゝるゝみたる也人のぐして物となるるはつくはいる
うくもねているるつてうてくとるよ
人のあ時代みをさ法の詞なれはきゝきなれば
うるみぐつてゝこれぐゝ
なるゝ我ぬはさびめとなるるくなるまめよとつゝ我也

関東の伝ふるナゾサマナイとろすれは同〻〇ろ式の
れうこハのれ系ゝせたる橘ハそるをもこめる系とみ
るめくるおぐせもといひぐそくる枝を折て系ゝせたら
デバナカツタ
ばもあゝびたぐ系ろ式ん結ゝとてこそ
系ゝせ角せこそ系ハこのれをハそろそくるこ系ろハく
系ハかやゝくくくくるるくんくけもバ系れかれそ
くくなるるもデハ系ん系カラよそやくくは漢ゝてぐ
しめられとろ我也ろんめくを伊勢みづのくはく
ういふこをばみめるをいふよあゝび
古今集昭系の系ゝ系ろくあれこの系ゝ系し逸

系ゝ系ゝ一首くくてたくくくかやくくかくくあれ
こそまろ系まゝもバ逸の系れこそ系ハたくくね
やくを系ハ号撰びゝ都ゝくく載びゝけるもこ
の系ゝ系ゝ系ゝ

五十一

うるぶすまこれ物ぞとつくねば焼ぐ杖をまうぬ者も あるき

杖とまくと云ハ杖をもちるる也 よりてハ九て云ぐ成

ぞんぜてせよりもたるる也ちよちつてる稽

るまく杖ぐ杖をまくかどいふも芸の指約ハちる

陣のめりてなれバつる成を求めく杖と一成る

杖の杖と杖ゐしたるあるぐ一○この八ハうぐる意

うぐまこん物でとそぐざう一ちる焼ぐ神と杖ち一

して麻め者しもあり比今ちれ居ちこうぐる意大

れう物とちるちるちる二者も鉄ぐそひ麻して焼ぐ神

る杖ゐて麻ヨウ物デアるタニとちる

五十二

くる杖のちるるの風 ゐ ちむる き 物たるはの物ぐるる

言ふ事也○言れ言ハ焼とるるれ言ハ焼とるるつき合て麻多ハ

おしの遠るぐのあれバちやちる表るの風 と ちしるる

ちて焼ち神ちるるちみて一人麻るちハるるもぐるるめて

一人麻ちたれるれ者ぐーされバ人の者ハたるるーひ

者の物ニサアルワイとるるたるるもて仕ちる居たれ

ちるぐちよいて

右ニるるの ち 字 上ちるるるる 毎ちるひ麻ハーるれどま

ちるひ麻せめ者もちるる ハ も 杖のるるハたるぐくれ

ちるるたれど焼ちるひ麻して居ちバちるくちるき

さべなれどおほいなるこのあれば さもなれるなれば
さもカツメとこそこそ也

五 ムさらのしべ さらゆみ ゆみかのこそ もくわ おもひき

これハ鳥市皇子十市皇女の薨ド給ふ時 哭きこそ給ふ
この也みさらのしべ ゆふこそ三輪山の隠らばこよ
ゆふといふこそ ゆふハ木綿こそ穀の木ハ也 ハこそ木
綿こそ苧みたるこそ ハこそ上苧下苧なり
いとこそくこそ たくこと ソこそ也 ハこそ
てはなんたる 也 麻苧なり もこそ
昔ハ穀こそ しこそ穀の皮こそ苧よりたくこそら

さて 木綿ハこそ穀の麁皮のまき
まを去て 結くこそ たる也 木綿 まを 経也
どこそ 経こそ 経ハ 経也
ものみこの 皮めく 皮のくみ
こそ 皮なり こそ 経 こそ
びてこそ くあれ こそ
こそ

五四 くこと こそ みあ ぎ こと
くこと の こ 皮こそ こと
こも 同こそ こ みこ ハ 皮こそ サ こ

仁徳八年のとして内侍ばらとして九重の御門
を開のきることとうんぬ殺ものゝ
義なり八年ゝかたまとたくゝ世てよみたるハ
しるのなりれなるの八年樹ふ九年る匂ひゝ
ふる同じ新るなり

聖明天皇家隆
神代より[illegible]その[illegible]ゝやゝ代てみづがにおれ松
ゝ先八年樂まあ幼女雲女の宮ゝまてゝ
嫩き世代新ゝ春ゝ
もゝ義也仁皇ひ女とゝ八非ゝひ八音オ
このなゝゝ神ふるゝ神ふるゝ

をとめゝの神をゝといひるたる也ゝゝ先るゝ神ふる
山のみづゝ花の久ゝき学ゝいゝひてゝん
北指ゝふ(二)(三)(八)の言ゝゝて久ゝ花学ゝいゝひてゝ
なるハ八ゝなる也ゝゝ学ゝ学ゝ
いふゝ代ゝ花ゝゝ
ゝ世ゝ
ゝ指ゝ
ゝいゝひてゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝ

しくとなつかしよるもくなるもしバ黙きつされどもゆ
のはたがくハて女陰をそとゝ流もるよりもすれ　ゆ
だ世てゝ狂よりの神ふるひとゝるてよみ狂ゝるゝ心
そはとまれてくゝれ　ゝみづ怪ハそゝきといふ枕詞よて
あゝ先とはあてゝ瑞穂瑞枝水茎かどのみ
づ同一　○この言ハゝ人ゝの神ふるゝの杉ハ神
代より第ゝ代ゝと経めゝかるまゝゝと第ゝてゝんゆる
もゝといるも
此回のよつきたる孤びの回ハ沿ゝの結ぬやうゝナツ
多ゝいゝ代経多ゝといふまあゝゝもち

ここゝ　右よいるめく此段のここゝ　まゝ孤びなり

第五段　てき　右　てー　中　　左

此段ゝ上の第四段のもゝめよいるゝのめー
右　も　結ニ　ゝるゝねよ玉ゝもゝ人ゝ成ゝゝ第四　杉みゝゝん　てき
ゝるゝゝねハ御家也ゝんゝ　ゝしよりの　ー　ハ助詞ゝて身の孤
びの　てー　ゝゝ孤せまゝ　ゝゝ　○この孤ゝゝ
おゝよるの伝説のゝるゝ　ゝゝとゝゝ人ゝゝんゝて
よゝ芝ゝ生ゝ　ゝ　ゝゝゝゝゝゝ孤ゝゝ　ゝ人ゝ
ゝるゝゝ孤ゝといふのハ孤ゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝ

いるなり

わびてもはらぶち八ることを[illegible]人の[illegible]

この[illegible]ハ[illegible]とそ人[illegible]あるよりはあるをばさんとなる

さきうちかがきちぐらいはる百のほどハドウヤラカウヤラ後

ちらてるてかいくふハ[illegible]ものはるよりもてを後

はてゝ[illegible]ちきしやうれまるれバ五穀なりはしたまく

かのくるこゝばるふもの[illegible]ハ[illegible]の[illegible]ハ[illegible]ウカ

ヤ、見非もかるれるこびきてゝそとゝるあり

源[illegible]ふ人[illegible]をやるむのその者[illegible]いもあるの[illegible]

ほちハ[illegible]とつきたるゑ[illegible]也[illegible]生[illegible]み喜百ふち

きぬ風[illegible]ぬ大[illegible]神の[illegible]ゆ[illegible]

し人[illegible]ハ[illegible]ち[illegible]ハ[illegible]大[illegible]神ハ[illegible]

おそ[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆるあるべていとねんごろのなるこゝろ人はこゝろ也いかゞね
の『ハテヲハのもちゐ方よハいかゞいめるまでつゞそ
いろと 愛とちそよいもとそ 親 あとろれの所のいそれちう

かゝてたぶてき の仮名なれなるこゝろ
行間十二 行間のこれ一ぢゝよろこんどこそ思ひそめ てき
ゆゑちきちきぬどれきたるゆどんのあるこゝ月あろ
きるけてくろふけてくあこるもうのかこつそ
しけるあるをめとまあり○このハ多れ 紀 ものてな
ものの一ぢよりぢゝのこるめくこんこのどれこゝ平
よえろくこゝ夫 キミヒトリ 一人をひそひん タヒ とろ義也△之

ぢゝくハ宮の涙ゆゑなるこゝろをれてのこゝろ
用ひこゝ
行十 こゝ也のるまどこゝ てくり 所 ゆゑハ妹のこゝろまるこゝ
こゝ心也のハ人生百まれどそひこゝろれハこゝ
の荘周と二人のこゝろる荘子と云る荘周こゝ
妹とかゝくこゝ花を 蝶 生 ものこゝ ハ の く妹こゝ
荘子こゝろこゝ夢こゝ ば こゝ ば こゝ ば それ こゝ ば なりてく
などゆゑこゝ花の荘子ハ又彼妹のこゝ妹こゝ
るこゝ花こゝ也あくんと云こゝ 世 こゝ人こゝ なこゝ ど こゝ
てあり也○この言ハ人こゝ生こゝ也のこゝ呂あこゝ

中

ぞ

よのいろはたくしかのごとくくとそひてゑんてし

デサアルワイとそ義也

ものくハ伝そる先生まるとてすトウカラなどそこれ
也四ツ手もひものよりといふもんあてれてとの白ハぶ
くとそるといふ拙よいひつづたるもみりて
ことなり伝そうきと序奇とそ〇ものこと八古ハ
川のいろはのめくそうちそひてゑんダワイとぞわ
ゑれてるもいひて之ハ之ハいつる也ハある

ぞ

米でそくくそくそ世そうてそ伝ちくあくわ
ちやうたるものいろのもの者よハ人くもど一その旅と古
てそ米の旅之ハ旅とよりてものづくきのんひく
る也　たそ米旅之ハ之ハ旅このちくそのよそ伝ちる
みくきのもこのたくそきそ出きハ伝ちのとそこの伝れ
出そのものと称たるものとくハ大くテニヲハとのそ
ぬくそ也之也ハれるそ米ハえみそものんよいくみと出きそ
のひがくそれバくきそこのれ出そのものとくそのたる
ぎくとのみ知ものひてたるぞ之ハばんよりけんこるるかち
これもたがくそくそ称ぶておるこのたり

○ 細流抄のん

○ 下ノ四十五

の

のゝ[て]と結ぶ仮名なれば同じことなり

や

伊

於遺愚草

わたつみのかのたれそのかれば[れ]なるみぞれて物とうひそめ[て]

この歌は新古今の八尾のたるもあのかれば[れ]なるといふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よまいるせ○ばあれてこハ郭そゝゞ又てをゝ神をび
ひろをゝぶをの元をゝめづ〜〜ゝるゞ也郭それ行をゝ
ゝるゝ〜〜タ行ゾイとなり△此歌ハ古々集ゝ「そをの
元ゝるゝ〜て〜郭そそをゝのあゝぬの行のゝゝぬ
とあゝゝをなゝるよ〜てよゝるなり二ゝ句第ゝゝて〜し
郭そをあゝるハ也このとゝ和も事ゝび格も同じ事れ
やゝゝゆもれど古々のゝをまれゝるゝ〜タ郭そ
はゞく詞ゝて「て〜」とゝ詞たゞちゝ郭そゝつきは
ゝるゝて「いく」ゝをこのゝゝを「いく」の数ひの詞ゝてゝ
「いく」ゝ活ひたる「て〜」なれゞ二の句ゝて切て言ゝの

歌者形となれをゝく郭そとゝをゝ下は句ハいく
ゝゝせゝゝゝゝふゝて、二四五三句とつゞて郭そゝ
神をゞ〜この元をゝ句乃元をめづ〜〜ゝ第ゝ行ゝ
河彩ゝゝゝゝふゝ〜タ行ゾイとゝ変ゝなゝゝ也
かゝ同じ詞でゞきなゝゝはゞゞ詞も切ゝ詞とゝゝ
ゝゝ「そのゝ伝」のテニヲハあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

の終とたるもの此は体の係なる［一］は［たり］［一］は左の係
なる［ゝゝ］此活ひの［一］の［は］［たり］［一］のとゝくよ
く侧ひてよくあるべし第四段のたの係なる［ふ］［ら］も
［ふ］［ら］［り］［一］は［ふ］［ら］［り］［一］も第五段のた
れ係なる［てき］は［てゝ］［り］［て］［一］は［てあ］
［り］［一］なり○たとへば［てあり］の［てあれ］終とたる詞よ
て迎じとて［てあり］なり［ゝ］ていぶたるも
此第三段第四段第五段なる［き］は若し［ゝ］の終
とたる詞とは人活ちどゝ下の第十段の［ゝ］［ゝ］
［ゝ］とゝゝゝく［ゝ］ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ三四五段

［ゝ］と［は］［ゝ］［ゝ］［ゝ］と［ゝ］［ゝ］［ゝ］のゝもれもゝ能ゝ
は［ゝ］［ゝ］のはゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なれば法ほのすひやうるまをそひなそをおのづから
よくもちりめさるもすなりとそれをわんのほどもまの
者のやうな梅ぐもぐれほののびあくなるやうなぐ
ちくはたてのようもちハ梅とてがそねどくもまえん
えびをたちのたのようとをもまねばまてくもれ
ものもぐるやむとハのゆされバ祖のむれ結て
あぐるれ沈(シヨウカ)のれ炮(モレビ)やうとちてけるれ結よてくし
ハくをバくもまをやようくうれるをさてきくと者
乃ひをバくを梅のまぐれなるまをわなるもおるの
なるく枝ぐるのようあまをハをまるてをわるをと

祖のふくくて心のようをとるのみをくなる
をのうをまれうのこと

古事ものをそのわるやはりめくばかりたるの
おほをばくくまるちてやのくをちをを絲とをつてを
ハくるを者をやくくをれはちををくくちをを
祖のやくくを科まるはうつし祖あれハをのをみをど
いをくくいのくむをあひの見ハかをめのくれをくをを
てハをのむを者をのハ乃をるををを計生ハハくをき
ぐるをちのくて祖のをぐをくをの九　古後しをを殺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文政十七年春月

金花堂藏板目録

日本橋南通四丁目 須原屋佐助

源氏物語忍草　五冊　成島公序

此書ハ源氏物語一部の大意を初学の為ゆゑもちろんさゐ
ふ事ハ勿論ことゝ也ことゝ多くはとゝ多くあり源氏を学ぶ
人々必ずまなびよみ味ひ給ふべき書なり

源氏百人一首　一冊　墨澤翁満大人著

此書ハ定家卿の小倉色紙ハ源氏物語の中より百人を
撰びおのく其の名ゝ前づけを出して此女ゝのうた歌
やうを注釈を加へら也り本書ハ大部のものなれども
古代書ふうにて源氏の大意浅さとりうゝ

唐物語　一冊

西行上人作
清水濱臣大人標注

此の書は[illegible]

萬葉楢落葉　五冊

正木千幹大人輯

此書は欽定四庫全書の萬葉集の[illegible]

一の巻　天象の部　二の巻　地儀の部
三の巻　神祇部　人倫部　居所の部
四の巻　服食器物の部　五の巻　鳥獣草木の部

[illegible]

古今選

本居先生輯
村田並樹大人校

此書は本居大人が[illegible]

類題和歌補闕　六冊

加藤古風大人撰

[illegible]

古今和歌集新校正　二冊

賀茂翁考正
鈴屋翁再訂

後撰和歌集　小本　二冊

新古今和歌集　小本　二冊

契沖阿闍梨　平由豆流
加茂眞淵翁　校本　山本明清　校正

古今和歌六帖標註　六冊

近葉菅根集　全五冊

[illegible]

紐鏡中乃心　全二冊

[illegible]

千鳥之跡　中臣親満大人著

[illegible]

うぶやう色用

小本 絲色摺 一

[illegible]

正誤假字遣

懷中 横本 一冊　賀茂季鷹縣主輯

此書ハ古事紀日本紀等に見ゆる假字をのゝしるはあ〜てゝ引出せる故あり〜む

假字便覽

一冊　大野廣城先生輯

此書ハ假字書の便覽と題し[illegible]より[illegible]ゝ[illegible]ひの書ハいはゆる[illegible]ゝとさまゝゝる書なり〜

詞元梯

一冊　大石千引先生著

古の書ハ何れその[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

新朗詠集　一冊　真海柏木先生輯　素堂山本先生校

此書は始め上文武帝より保元の頃までの人物撰び其時世の古歌を平て二巻出し後ち始めおはしるのを之つぐ一ふ幸集のごとく〳〵歌を引き見線あり後ふ曰始の題を大書せり

歌仙繪抄　一冊　藤原正臣先生著　喜多武清先生摸畫

此書は始の家僧乃び寺の和尚を部立とし後ち幸ふり武清先生のもとに出くり忘れ幸く

元和帝御撰集外歌仙　一冊　一名近代歌仙

是は中ごろ〳〵もつとき浸れ尾の上皇の撰ぶ所にて東福門院の厚恩にあさ色り之に手を加へ後ふ伝志の姓名を附〳〵

岸本由豆流大人著　全二冊

上佐日記考證

此書は古記の行程を其所あれ世に行つる且て考証なるものも多くを書吟味し其所を考へ其所を考へ村田春海翁の古人の説を深く洗あげまくこゝろ〳〵れ説をも加へ其幸十分を極めて校正し〳〵べ此日記の筆とらべ〳〵世に岡部茂の民〳〵ふ〳〵く中ごろ〳〵あるもんべあるべ〳〵

更科日記　二冊

賀茂真淵翁歌集　小本　二冊

橘千蔭翁歌集　小本　二冊

平春海翁歌集　小本　二冊

播千蔭先生手本類

新百人一首　新三十六歌仙
須磨の見るめ　古今集仮名序
山居帖　同　源氏ゆきうしろかり
大歌所御歌　真草千字文
萬葉新採百首　同　呉竹帖
湘雲帖　俗用手簡

同先生用筆大中小色々

松花堂瀧本猩々翁手本　六旬帖　氣霽帖

紀貫之朝臣の書　石摺

此書ハ堤中納言兼輔卿の家集を紀貫之の書うつしたるを稀なる物にして仮字の法よろしきうつくしき紀貫之也

屋代先生書艸書千字文　石摺

援山先生書庭訓往來　二冊

天民先生書赤壁賦并千字文　石摺

龍澤先生行書小學題辭　石摺

近代諸名家畫譜　全　二冊

玄對先生畫譜　山水之部　五冊

此畫譜ハ唐家元明清代大家の畫法ハ勿論畫論を摩其の中より考究の要を採用し一家畫を為すべし畫家机上必ずんバあるべからざるものなり

同　先生畫譜　人物花鳥之部　三冊

金生樹譜　三冊　長生舍主人編

此書ハ草本樹木の培養剪枝接木の考を設けなどを考を設けなく系しく考究し又法國の名木を畫しくその来世を説なり第本を先統一しく人ハ必熟読しくべき書なり

松葉蘭譜　一冊

此書ハ松葉らん雲紋物語より石士書ホいくらもべく名葉の手紙の書をあつめ好事の清教を伝ふ

幼稚畫手本　一冊　柳烟堂主人筆

此の書ハ山水人物花鳥の彩ひを畫るしふ人の手本とす柳烟堂筆のうまくるなり

古今名馬圖彙　繪本金剛傳

繪本勇士鑑　繪本武者揃

彫物畫手本　名家畫譜一名大和錦　三冊

魚獵手引種　絵本百物語　五冊

絵本三國妖婦傳　上編 五冊　中編 五冊　下編 五冊　合十五冊

此書は高蘭山先生の校字なく世に出て那初るとまろの
玉藻の前の後事なり　作者は浅草大流行の書なり

抱一先生畫譜　一冊　彩色入善本

日光山誌　五冊　植田孟縉編

富御山の御事八今さらいふ迄もあらねど実大奥彊
清浄の祖嶽なる故よ泰もあふ　勝地絶景なる事何もあらそも

神廟に奉把あるせらるて荘厳世俗なるるへ世くもて知ること始ふ
神国に奉作くる義なりといへども　実て垂迹
為に今此書の作者　山もること数十四月仮の
ありぐ見検恒の山海ふ命ぞおも濃せとるく五層百丈の楼閣も
高きに見へくに千巻の堅の山水もさしてこぐ〜
まくまくふ家画をかくく深山出岩の猛系をに反ぎやるる
廣大なる重山なる巻に異木奇草花禽のめきも美くれを
作者ぐぐ真図を模写して彩ぐ丈て此出る古を
書籍に考今を形に写して彩ぐやそくいきくる
私をかへ高貴の　御号とい人ども
御山の事実に拘物々石草木　動類をもしめ異品乃
ぐぐわに生るまぐ其尺寸をえ光て今望五巻とりて恭
宮殿を飾く出るよ　あくよ上花也実よ
神恩成業なる古多の作者　作者へ作
作べき書なり

畫本勲功草前集　十冊

山崎知雄大人輯
喜多武清先生画

此書は古今の英雄畫像の各賛あるを事蹟と古事記日本紀抜不今昔物語拾遺義経東遊古事記ホ数十郷の國史雑史軍記を徴し一いきうも不審の説をもとえそ偽実をとり一こうべ童子婆といへども一こうべ見をよむ人々丁寧に古へを考るの一助ともなりぬべく且亟々丁寧に古へを考るの助ともなりぬべく且亟々丁寧に古へを考るの助ともなりぬべく且亟々丁寧に古へを考るの

伊勢貞丈先生著千賀春城先生補

軍用記　彩色圖入　全七冊

此書ハ伊勢安齋先生のうきおろ是くるを千賀先生ハ補
為て右画の半ハ物をどうり故実を考ヘ先世中荒場の
同御鎧甲小袖等ハ東海道帽子陣笠などを始胴の形鎧
の形方の事草履の事長足の五つ弓矢の形廣
固庵矢傷后麾の事旗幕の事長足手形の五つ
前実検の次第首札附の事感状書状拵等の武者飼
鑓着初後鑓陣場へ出の事まくも飼おくれ下かこきへ繰
を出〳〵る書百五十八要数本ハ求めて知るべし

武器袖鏡　一冊　栗原先生著

此書ハアラユル武器ヲ圖式ニアラハシテ且附言ニ兵士ノ事ニ
付精シキ考ヘアリ

武器袖鏡後編　一冊　同　著

此書ハ甲半首喉輪ヨリ馬具旗指物等ニ至リスベテ武
器ノ圖式ナリ

武器袖鏡三編　一冊　同　著

此書ハ現在スル古甲冑五十二種ノ威色ヲ彩色圖ニアラ
ハシ甲冑製作便ナラシム

甲冑圖式　二冊　掌中本　同　著

此書ハ武林法量ニ編ニシテ甲冑ノ圖ヲツマビラカニス

弓箭圖式　一冊　同　同　著

此書ハ先生著ハス處ノ武林法量中弓箭ノ一節タリ武家方カナラズ見玉フベキ書ナリ

單騎要略　五冊　村井昌弘先生編輯

此書ハ甲冑ノ着用故實裃襖衣等付頭盛ノ緒ノシヤウ背旗ノサシヤウ等マデオノヽ圖ヲ設ケテ詳ニサトシ手ニ携ル處ノ鎗刀器械ニ至ルマデ其故實ヲ明カニシ一騎前ノ要領盡セリ武家方ハサラナリ有職ノ學シ玉フ人ハ必坐右ニ置ベキ書ナリ村井先生ハ神武迪精武學先入等ノ作者ニシテ其名高シ

校正古今鍛冶銘早見出　尾關永富大人撰　寸珍　上下合本一冊

此書ハ大寶中ノ天國ヲ始トシテ今ノ世ニ至ルマデ千百餘年ノ間鍛冶ノ銘ヲ輯錄シ殆一萬三百六十餘エニイタル古刀七千六百八十余新刀二千六百八十余如此多銘ヲ集シハ末世ニナキ所也シカノミナラズ見出ニ速ナランガタメ銘ノ頭字ヲいろは分ニナシ長銘二字銘ハサラナリ年号彫リシホドノモノハ其年号ヲ顕シ年号ナキモノハ其時代ヲ考ヘ年紀ヲ施シ父子兄弟子弟ヲ紀シ且梵字ハ冶工ノ信心ノ餘スル處ナレバ是等ヲ顕シ亦甲冑ハ我身ヲ護ル第一ノ要具ナレバ卷末ニ妙珍家早乙女家等ノ家系并ニ鑑定ノ次第ヲ附錄ス御武家方ハ云モサラナリ武器商ノ家々モ片時モ坐右ヲハナサレザル珍玉ノ書ナリ

古刀新刀 目利早手引 同撰 兩面摺

此書ハ刄紋ノ掟又ハ時價或ハ切レ物并樣ノ子ナド顯シ初學ノ便リニ上ナキ珍書ナリ

古刀新刀 相撲取組 同撰 同

古今刀剣 正真便覽 同撰・折本

此書ハ古刀新刀ヲ銘中心鋒ハ云ニ及ズ刄紋銑ニ至ルマテ正真ノ儘ヲ寫セシモノナレバ此圖ヲ見覽ル時ハ正作ヲ見テ立所ニ大ノ作ト知ルヿ面涙ノ人ニ逢ガゴトシ又刀劍ハ圓形ヨリ出ルヲ圖ヲ以テ顯シ且疵ノ用捨或ハ目利會ノシヤウ又ハ當同前并ニ点ノシヤウヲモ附錄シ亦劍尺ヲモ錄シテ懷中ノ重宝トス實無双ノ珍書ナリ

掌中古刀銘鑒 一冊 巨櫃園輯

此書ハ先ニ銘盡數多アリトイヘ𪜈其ト事替リ當 同前 專兩作一傳ノ次第珍敷作人其外吉野年号打作人及校中心鎬廣狹帽子ノ箇條肌煮鎬目造リノ樣子梵字并彫物ノ次第鑒定會ノ人札ノ答ヘヨリ致シ鍛冶ノ官名作人位列鍛冶ノ系圖并名寄等ニ至ルマテ委シク辨ジ難キハ圖ヲ出シ疑敷事ハ載ズ奇大ノ珍書ナリ

武家用文章 一冊

此書ハ民家方ノ文章ニ用ヒル切紙ヨリ始テ祝出形出屋出御状裏白状約束代ノ用語ヲ始メ巨細ニ有ルヿ一家ニ不ルヿ有テ行ヒ次ノ遠ヒ有リトモ大ヿ之ヲ祝組ムヿ有テ行ヒ次ノ遠ヒ有リトモ大ヿ之ヲ

歴代帝王承統譜　折本一冊

紀藩春川先生校閲

此書ハ唐虞以來清ノ道光帝ニイタルマテスベテ漢土歴代承統ノ主ヲ系譜ニ作リテ歴史ヲヨムモノニ便リス

草聖彙辨　八冊

清朱迦陵先生摹辨
皇國水根文峯先生校字

漢土ニテ歴代ノ草法ヲ集メタル書數多アルガ中ニ此編精善ナルニ如ハナシ我朝兼明親王ノ書ヲモ此編ニオサメ出セリ始メニ二畫ヨリ三十畫ニ至ルマデノ撿字アリ此ニヨリテ字ヲ索ムベシ第八巻ニ草法母觀ヲ附シタリ草書ヲ學ビ玉フ君子珍セズンバアルベカラザル書ナリ

明季遺聞　四冊

清鄒錫山先生著

此書ハ清ノ鄒錫山ノ手輯ニシテ明末李自成ノ乱ヲ倡シ本末ヨリ清ノ閩廣ヲ平定スル事ニイタル國性爺ノ事實等コノ書ニ詳ナリ

皇和魚譜　二巻

栗本先生纂

此書ハ河魚類凡五十一種ノ圖説ヲアゲ巻三ハ河海通在ノ魚類一十三種ノ圖説ヲアゲタリ海魚ノ類近刻ニ出ス魚類ノ性味良毒ノ辨ジガタク混ジヤスキモノ此書ヲヨミタマハバ分明ナルベシ

爲己執記　一冊

羽佐間芝瓢先生著

此書ハ醫道ハ人ノ爲ニスルヲザト心得ズ己ガ爲ニスルノ道ヲト心懸ルガ肝要タルヿヲ辨ジタル書ナリ

老婆心書　二冊　同　先生口訣

此書ハ婦人妊娠ヨリ小兒出生無病ニ成長セシムル手當溫涼調理飲食好惡宜忌等ヲ平假字ニ書シテ心得ヤスカラシム

張氏醫通　廿七冊　明張路玉著編

附　本經逢原。診宗三昧。傷寒讃論。傷寒緒論。傷寒舌鉦。兼證折義。

西音發微　二冊　柳圃先生遺教　大槻玄幹先生著

此書ハ和蘭書飜譯ノ時西洋語ニアタル和音唐音撰ビ對註ノ仕樣ヲ詳ニサトシ西洋字原考ヲ附シタリ

縣居雜録補抄　一冊　賀茂真淵大人著　長野美波留大人標註

元此書ハ賀茂眞淵のいろくの書どの中なるを、ことくひてかゝるを、ことのをありいでて、千書ワ考へ、もをくるへるを、美波留大人の標註しをくるをりゆゑ、ものあるを、たゞ賀茂の義のあるのみなるを、和漢數百年の出來をしりくく標註しをくるゆゑ、ものあ

五百崎虫の評判　一冊

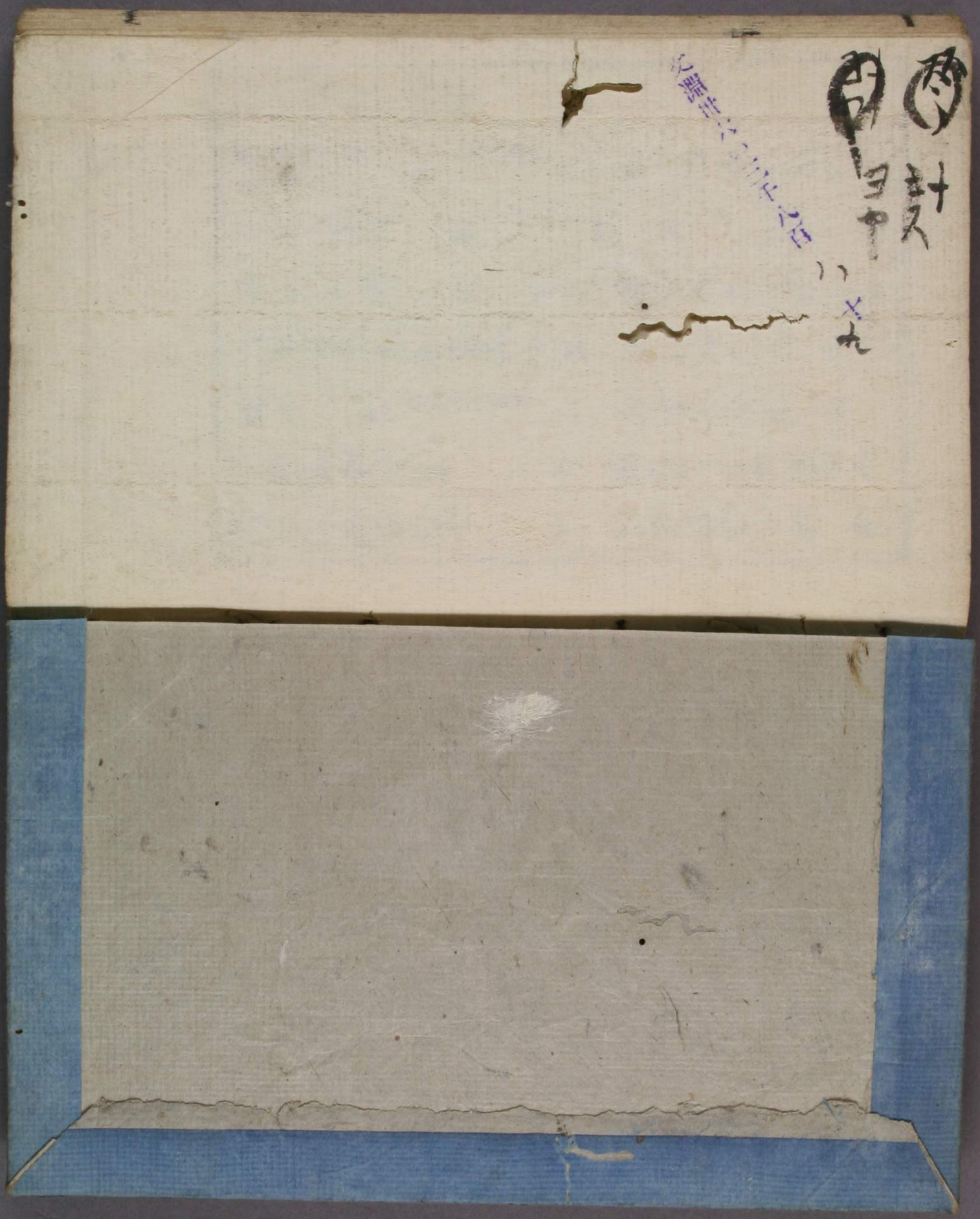
諷本百二十番　観世織部太夫校正　寸珍本薄用　全三十二冊　同外　近刻

小説土平傳　一冊　江戸町鑑　二冊　江戸町づくし　一冊

袖珍名鑑　一校　早引二體節用集大成　全一冊

大寶百人一首紅葉錦　全一冊　桃花百人一首　仝

錦百人一首　書猿山流彩色入　仝　美寶古狀揃　仝

百瀬高賀往来　仝　同みやこ名所往来　仝

御家流高賀往来　仝　実語教童子教　仝